

社会認識を深め、生き方にせまる社会科教育の探究

～ 三芳地区の酪農から考える産業学習を通して～

1. 主題設定の理由

社会科学習において、生徒が主体的に生きる力をはぐくむには、単に社会的事象を表面的に理解するのではなく、社会的事象を構造的に把握しなければならない。そのために、科学的な社会認識を深め、自らの生き方にせまる社会科学習を構成し、展開していくことが必要となる。

そこで、地域素材を取り入れた「三芳地区の酪農から考える産業学習」の開発と実践を通して、「社会認識を深め、生き方にせまる社会科教育」のあり方を探りたいと考え、本主題を設定した。

2. 研究の目標

地域素材を取り入れた自主編成単元「三芳地区の酪農から考える産業学習」における、「生徒の問題意識を大切にしたい指導計画の作成」と、「地域の産業に携わる人々の思いに触れる場の設定」の、2つの手だてが、「社会認識を深め、生き方にせまる社会科学習」を構成する上で、有効であることを明らかにする。

3. 研究の仮説

社会認識を深め、生き方にせまる社会科学習を構成するために、仮説を2点考えた。

- ①地域の主産業である酪農を教材化し、生徒の問題意識を大切にしたい指導計画を作成すれば、意欲的で主体的な学習となり、社会認識が深まるであろう。
- ②取材活動等のFWやGTとの話を通して、地域の産業に携わる人々の思いに触れる場を設定すれば、自分の考えや価値観を問い直すことができ、生き方にせまることができるであろう。

4. 研究方法

地域素材を通して、「三芳地区の酪農から考える産業学習」に関する事実を丹念に研究し、教材化を試みた。そして、生徒の問題意識に応じた学習活動の展開を行った。

- (1) チームによる素材研究と素材の発掘
- (2) FWの利用
- (3) 地域人材の活用
- (4) 討論活動
- (5) まとめ、発表

これらの学習活動を取り入れながら、社会認識を深め、自分自身の生き方を見つめる社会科教育の一教材化を目指す。

5. 結論

生徒の問題意識を大切にしたい指導計画の作成や、FWやGTとの学習によって地域の産業に携わる人々の生き方に触れたりすることは、「社会認識を深め、生き方にせまる社会科学習」を達成する上で、有効な手だてである。